

みんなのギャラリー

市民の皆さんの投稿コーナーです。紙面の都合で、掲載できないことがあります。問い合わせ 福津市中央公民館 ☎43・2100 FAX 43・2868

地域婦人会だより 「創立60年を迎えて」 新たな気持ちで

川柳 【福岡川柳会】

音のない口笛失意まぎらわす 神谷 幸恵 きびしさの想いとどこかぬ子の若さ 西 和子 余生とは分析ばかりして夫婦 中原 恵子 わたくしが間引かれている水の星 西村かおる クレヨンで描けばやさしい曲線美 藤本久美子

俳句 【太郎丸俳句会】

狛犬の阿吽の睨み夏隣 畑迫 義文 岬へと続く町の灯鳥帰る 畑迫みさを 白藤のそばにて友と語りけり 藤富 久子 春銀河生死に切れ目なき如し 山田 章 春の海硝子の欠けらとなつてゐる 田中二史子 駄菓子屋に新顔もいる五月かな 坂上 俊恵

【玄鳥俳句会】

疑いの放射能かも黄砂降る つるみつお 堤防を走る自転車若葉風 小野むつ子 クローゼットに納まりきらぬ更衣 小松富佐子 雨あがり山吹の花伏せにけり 幣 ふじの

短歌 【わたつみ短歌会詠草】

震災の地に未だ霏霏と雪がふる 小林 陽子 三月桜よ黙し咲くべし 山形 四朗 もったい振った前置きはよせ YESSかNOか唯それだけを聞いて置きたい 出かければ『病院ですか』と人の聞く『美容院です』と髪に手をやる 野部フクヨ

囲碁・将棋大会 結果

市実年囲碁会4月例会 次回は、6月7日(火)、6月21日(火)午前10時 受付締切により、市中央公民館和室で開催します。

	1 位	2 位	3 位
1	菊地 猛	今泉 武志	泉 巖
2	佐藤 弘	工藤 英一	岩谷 巖
3	東 治夫	山崎 和夫	田中 貞夫
4	木植 宏	加村 光義	今和泉敏之
5	橋本 鉄一	河野 吉幸	東 輝雄
6	吉田 弘実	杉本 敏	宮川 義信
7	須貝 健一	永島 和美	荻 忠志
8	堺屋 光男	肥高 勲	中島 靖文
9	花田 章	松沢 千里	橋本 繁晴
10	高木 正信	武田 隆幸	柴田純一郎
11	荒巻 渉	立野 義之	西住 弘久
12	春藤 哲夫	竹石 和徳	坂井 衛

連 東 輝雄 ☎43・1626

福津市将棋同好会4月例会

	1 位	2 位	3 位
A	石松 大明	春日 久行	北原 靖三
B	川端 政憲	赤星 文雄	仲上 徹志
C	本村 弘	阿部 博文	中村 勝利
D	諫山 嘉刀	羽倉 恵嗣	木道 健一
E	椎森 弘喜	染森 和治	岡部 正敏
F	大隈 勲	高田 治夫	城戸 正隆

連 吉村 友行 ☎43・1308

福津市囲碁会4月例会

次回は、6月5日(日)午前10時受付締切により、 囲碁会を市中央公民館和室で開催します。

	1 位	2 位	3 位
1	菊地 猛㊦	執行清春㊥	福田 豊㊨
2	荻野 力㊨	田中英則㊨	菅原勝弘㊨
3	三原敏男㊨	橋本鉄一㊨	佐藤 弘㊨
4	木植 宏㊥	中嶋 孚㊥	加村光義㊥
5	山口忠男㊥	小田邦彦㊥	村上喜代司㊥
6	田中貞夫㊥	須貝健一㊥	佐藤辰夫㊥
7	林田健介㊥	田中俊勝㊥	内場和光㊥
8	松沢千里㊥	森北新吉㊥	中嶋 一㊥
9	松田徳昭㊥	高島正憲㊦	橋本繁晴㊦
10	堺 高之㊦	堺谷光男㊦	笹山輝雄㊦
11	城野正雄①	立和田實①	春藤哲夫①

連 今丸 渾 ☎43・3325

津屋崎囲碁同好会4月例会

次回は、6月26日(日)午前11時から文化会館で開催します。

	1 位	2 位	3 位
A	今丸 渾㊦	船橋 雄㊨	菊池 猛㊨
B	中嶋 孚㊨	永島和美㊥	井本雅文㊨
C	中村 清㊥	鶴留 昭㊥	藤井義孝㊥
D	今村善司㊦	春藤哲夫㊦	城野正雄①

連 永島 和美 ☎52・5610

【川柳】

枝垂梅ポップス全盛ねじを巻く 木下 正治 応援の空より垂らすこいのぼり 薄 美津子 敵もなく味方もなくて耕せり 高見 英夫 花疲れ向きをただしてティーカップ 目代タカ子 土蛙文鎮のごと居座れり 石田フサ子 みちのくの空の恐怖や春がすみ 木村 克子 蛇穴を出でて被爆を知らされず 松崎 佐 濃き淡緑に映えて八重桜 千々岩洋子 青空にそつと色なす柿若葉 薄 多佳子

【海】

来し方の問わず語らず花の下 上妻 松子 春の雨窓辺の席でカプチーノ 岡部やエ子 菜の花の河原となりし暴れ川 凡夫 山肌に芽吹きの色のこんもりと 田中 照子 大津波春待つ町を一呑みに 小林 淑子 願うこと一つとなりて花満開 原田 令子

【津屋崎俳句会】

大地ゆれ唯ひたすらに青い空 林田恵津子 赤青黄自己責任というリズム 長井すみ子 頹杖の中の明日に水をやる 東 浩子 子が巢立ち会話途切れて茶をすする 空谷 弘通 降る量はほどほどにねと雨乞いす 久保山裕昭 新幹線止まる車内で走りたい 安井 秀子 田水張る鶯の思案の動かざる 鈴木 敦子 花の香の強き方へと経たざる 松尾 忠義 老少し臉にしまふ花あかり 小原 修子 菜殻火の想ひ出遙か友は忌に 中山富士子 鎮まりぬ心の波長春の海 室元松喜興 一族の憶ひが疼く春渚 熊本 栄美 風来れば誰かにお辞儀花菖蒲 熊本 隼人

【一般投稿】 — 短歌 —

チチカカの湖(標高三、八十二㊦)朝日輝き 水面に映えて魚とる小舟の人も 阿部 英子 どこよりも話題輝く博多駅 次は乗りこせ福岡が主役 宙 燃 桜ばなヒラヒラ舞ふや赤間宮 折りとどけよ皆に倅せ かずみ 早掘りの筈を呉る人なきか 老いてますます食欲健在 西郷川の河口に夕の潮寄せて 青鷺ひとつあかず漁る 野間 精一 移り来し福岡に子らを育て終へ 妻の逝きたりわれも旧りたり 義援にとズーピンメータクト振る アリア第九に胸迫りくる 坂口 怜子

【一般投稿】 — 俳句 —

小中学生の同窓生なる妻と吾 長閑に過ぎぬ恩師を語りて 日本の救世主なれと 原発の現場を励ます妻のメールは 今日又余震のニュースに胸痛く 心はいつも東北の地に 山崎あつ子 夏の暑き日も谷間の水は手につめたし 日だまりに長さをきそうつくしかな 的場 百世 朝明けに仄かに聞く庭の沈丁花 咲いてよし散って尚よし山櫻め お土産は無いと何やら下げて来る チューリップ回転椅子の研修医 管田 隆一 古里の訛聞おり夏近し 梟の声かすかなり春の宵 寺嶋 幸子 徳永タミ子